

セッカ 英: Fan-tailed Warbler 学: *Cisticola juncidis*

1. 分類と形態

分類: スズメ目 ウグイス科

将来セッカ科として独立する可能性もある。アフリカを中心に42種が記載されているが、種数は確定していない。本種とタイワンセッカだけが広域分布種。

全長: 12.4cm (11.2-13.0cm)
 翼長(夏): ♂ 52.56 ± 1.75 mm (N=49) ♀ 46.99 ± 6.11 mm (N=60)
 (冬): ♂ 52.48 ± 1.30 mm (N=132) ♀ 48.41 ± 2.30 mm (N=70)
 尾長(夏): ♂ 40.04 ± 2.29 mm (N=48) ♀ 37.60 ± 8.85 mm (N=59)
 (冬): ♂ 49.93 ± 10.50 mm (N=132) ♀ 45.76 ± 12.10 mm (N=70)
 嘴峰長: 10mm (9-10mm)
 ふち長: 21mm (19-23mm)
 体重(夏): ♂ 10.62 ± 0.83 mm (N=50) ♀ 9.90 ± 1.08 mm (N=68)
 (冬): ♂ 11.12 ± 0.85 mm (N=152) ♀ 9.96 ± 0.72 mm (N=78)

翼長, 尾長, 体重ともにメスよりオスの方が大きく, オスメスとも冬には夏と比べて尾長が1cmくらい伸びる。

※ 翼長, 尾長, 体重は永田尚志(未発表), その他は榎本(1941)より。

羽色:

繁殖期のオスの頭部上面は一様な褐色であるのに対し, メスの頭部上面は淡い褐色の地に黒褐色の縦斑が存在するため, 一見してザクザクした感じになる。この縦斑はメス幼鳥ではよく目立つが, 成鳥ではいくぶん不鮮明になるので, 注意が必要である。またセッカでは中央の2枚を除く, 10枚の尾羽の先端部に白色部があらわれるが, この白色



部分がオスでは鮮明であるのに対し, メスではかすかに褐色がかっている。冬季はオスもメスに似た色彩になる。

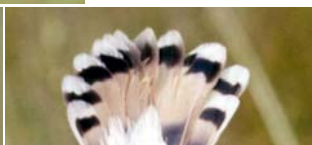


写真1.

セッカのオスの頭部(上)とメスの頭部(左下)。オスの尾羽の先端の白色が鮮明なのがわかる(右)。

口中の色彩:

春から秋にかけての繁殖期のセッカでは, オスの舌及び上下の嘴の内側(つまり口の中)が真っ黒になる。メスは普通, 舌の基部に, 舌に平行に2個の黒斑が存在する以外は嘴の内側は肉色であるが, 上下嘴の先端部内側に黒色部分が見られる個体もある。オスのこの黒い部分は嘴を閉じた状態でも, 嘴の付け根部分に現れるので, 繁殖期のオスの顔つきはメスにくらべていくぶん鋭くなる。この黒い部分は換羽中には早くも消失し, 非繁殖期のオスや幼鳥オスには見られない。

鳴き声:

オスは「ヒッ, ヒッ, ヒッ…」澄みわたる大きな声で鳴きながら上昇し, 下降するときは「チャチャッ, チャチャッ…」と鳴く。これがなわばりソングで, メスが出現すると「チャチャッ, チャチャッ…」と鳴きながら, メスの上で求愛ディスプレイを行う。メスは巣の周りで「フィッフィッ」という警戒声を出す。冬季は雌雄とも「チー」という小さな地鳴きを出す。

2. 分布と生息環境

分布:

アフリカ北部からヨーロッパ南部, 中近東からインド, 東南アジア, オーストラリア北部, 台湾, 日本まで分布するが, 北海道には分布しない。

生息環境:

チガヤ, ススキの草原。河川敷や埋め立ち地の草地など。イネが伸びてくると水田にも生息する。



写真2. オギの穂にとまるセッカの♀。

3. 生活史

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12月
越冬	越冬	越冬	越冬	越冬	越冬	越冬	越冬	越冬	越冬	越冬	越冬

繁殖システム:

連続的一夫多妻。オスは繁殖期間中に次々と巣をつくっていき, 多いときには20個もの巣をつくる。そして一つの巣ごとにメスを誘っては交尾し, 卵やヒナの世話をメスにまかせ, 次のメスを誘う巣づくりに励む。これまで知られている限りでは一夫十一妻になった例があるが, 一夫多妻になれるのは全体の4割程度で, 3割は一夫一妻, 残りの3割は独身である。

巣:

チガヤやカルカヤの地上20cmほどのところに, クモの卵囊から取った糸で, 生の葉を縫い合わせてつくる。美しい縦長の壺巣で上部に出入り口がある。風の方向が一定の草原では, 草がたなびいている方向が入り口になる。



写真3. 初期のセッカの巣。白く見えるのがクモの糸。

卵:

3卵から7卵, 5-6卵が普通, まれに8卵を生んだ例が埼玉県(秋が瀬)で知られている。1g程度の白地に赤褐色の小さな斑点がある。



写真4. セッカの巣と卵。

抱卵・育雛期間:

抱卵12日, 育雛12日が平均である。メス親は3卵目あたりから抱卵に入り, 非同時孵化が見られる。捕食率が高いので, 産卵にまで至った巣の7割が失敗する。親による遺棄もある。九州ではカッコウによる托卵もあるらしい。

渡り:

暖かい地方では留鳥。北にすむセッカは冬になると南に移動する。大阪でリングをつけて調べた結果からは, 夏に繁殖する個体群と冬に越冬にやってくる個体群がそっくり入れ替わっていることがわかっている。

4. 興味深い生態や行動, 保護上の課題

● 性比は1:1でも一夫多妻

セッカは一夫多妻だが, 特にメスの数が多いわけではない。ヒナの性比は, 判定ができていないので断定はできないが, おそらく性比は1:1だろうと思われる。では, なぜ1シーズンに一夫十一妻というような極端な一夫多妻が生じるのだろうか?

ひとつは一夫多妻といっても, 1羽の雄が同時に11羽ものメスとつがっているわけではなく, 次々とつくった巣にメスを引き入れて, 連続的に一夫多妻になるからである。このとき, まわりのなわばりで繁殖に失敗したメスが, 流れてきて, 別の雄のところまでつがいになるのである。高い捕食圧を受けるセッカの繁殖サイクルでは, こうして配偶可能なメスが次々に生じる。

セッカにはもうひとつ, 実際の繁殖個体の性比を偏らせている条件がある。繁殖期の後半になると, オスよりもメスの方が数が多くなるのだ。もちろん巣立った幼鳥の数には性比の偏りはない。問題はその後である。8月に入ると, なわばりオスがすでに渡去して空いたなわばりで不完全な囀りを行なっている若いオスもいる。しかし, オスの幼鳥はそのシーズン中になわばりを持ってメスを獲得することはできない。一方, メスの幼鳥は, 巣立ち後約一ヶ月で性成熟し, 繁殖に入ることができる。

7~8月のセッカの繁殖の様子を見ていると, 腹部が黄色い幼鳥羽のままで巣を持っているメスが出現する。はじめ, これはセッカのメスは成鳥羽になるのに2年もかかるのかと思ったのだが, 小鳥のメスで, そんな例は知られていない。一方, セキセイインコやキンカチョウのようにオーストラリアの環境変化の予測が難しい乾燥環境で繁殖する鳥類には, 数ヶ月でメスが成熟して繁殖する例があることがわかっていた。

セッカも草原の鳥であるが, 河川の氾濫原や埋め立て地の草原など, 恒常的に存在する環境ではなく, 突発的に出現するような環境を好んで生息する。セッカは植物で言うならパイオニア植物と言ってよい。早いサイクルでの性成熟と繁殖が, セッカの生息環境に合っているのだろう。私が調べたもっとも早い例では, 巣立ち後, わずか28日目で初卵を産下したメスがいた。

5. 引用・参考文献

- 上田恵介. 1982. 頸輪法によるセッカ *Cisticola juncidis* のヒナのエサ内容調査 Strix 1:30-36.
- Ueda, K. 1984. Successive nest building and polygyny of Fan-tailed Warblers *Cisticola juncidis*. Ibis 126:221-229.
- Ueda, K. 1985. Juvenile female breeding in the Fan-tailed Warbler *Cisticola juncidis*: occurrence of two generations in the year. Ibis 127:111-116.
- Ueda, K. 1986. Nest building and characteristics of the courtship nests of the Fan-tailed Warbler *Cisticola juncidis*. Tori 34:23-31.
- Ueda, K. 1986. A polygamous social system of the Fan-tailed Warbler *Cisticola juncidis*. Ethology 73:43-55.
- Ueda, K. 1987. Brood desertion in the Fan-tailed Warbler *Cisticola juncidis*. Jpn. J. Ornithol. 36:13-17.
- 上田恵介. 1987. セッカ *Cisticola juncidis* のオス・メス判別法一特に翼長の差について一. 日本鳥類標識協会誌 2:35-40.
- Ueda, K. 1989. Re-use of courtship nests for quick remating in the polygynous Fan-tailed Warbler *Cisticola juncidis*. Ibis 131:257-262.
- Ueda, K. 1993. Effects of neighbours: cost of polyterritoriality in the Fan-tailed Warbler *Cisticola juncidis*. Ethology, Ecology & Evolution 5:177-180.
- 榎本佳樹. 1941. 野鳥便覧(下). 日本野鳥の会大阪支部.
- Yamagishi, S. & Ueda, K. 1986. Simultaneous territory mapping of male Fan-tailed Warblers *Cisticola juncidis*. J. Field Ornithol. 57:193-199.

執筆者

上田恵介 立教大学理学部 教授

1950年大阪府枚方市に生まれる。小学校の頃, 鳥の飼育係で鳥の羽に興味を持ち, 鳥の羽コレクターに。中西悟堂さんに手紙を出して野鳥の会に入会。府立寝屋川高校卒業後, 大阪府立大学農学部で昆虫学を学ぶ。この時は鳥ではなく, ヤナギ・ポプラの害虫ブチヒゲヤナギドクガの個体群動態を研究していた。修士課程修了後, 京大農学部昆虫学研究室を経て, 大阪市立大学理学部博士課程に進み, この時にセッカの一夫多妻制の研究をして, 博士号を取得する。三重大学教育学部非常勤講師を経て現職。

現在, 研究室の院生・学生といっしょに野外で研究している鳥は, メボソムシクイ, ルリビタキ, ジュウイチなど。今年からヤブサメ, バン, ツバメ, ヒバリにも手を出しています。九大の



南アルプスの, 農鳥岳山頂にて。

江口さんらとの合同チームで, オーストラリアで, ハイガシラゴウシチュマルハシとセアカオーストラリアムシクイも調べています。今年からはミドリカッコウ類とセンニョムシクイ類も。ああ, 忙しい!